



平成24年度

宮崎市 だれもが  
住みよいまちづくり賞



宮崎市

# 中・大規模施設部門

優秀賞

## 鹿児島銀行宮崎支店



- ・所在地：宮崎市広島2丁目
- ・主要用途：金融機関
- ・所有者：(株)鹿児島銀行
- ・設計者：(株)岩切設計
- ・施工者：(株)上田工業

### ○講評

車いす使用者用駐車場は、雨に濡れず乗り降りができる。出入口は自動ドアであり、視覚障がい者誘導用床材のほかに音声誘導装置を設けている。ATMは点字表示と音声案内を内蔵しており、説明もわかりやすい。オストメイト対応設備やコミュニケーションボードの使用など施設全体の細かなバリアフリーが評価された。

奨励賞

## デモン・デ・マルシェ



- ・所在地：宮崎市大字内海
- ・主要用途：飲食・物品販売施設
- ・所有者：(株)南郷包装
- ・設計者：(株)凸版印刷
- ・施工者：(株)ジーテック

### ○講評

出入口近くに車いす使用者用駐車場が2台分設置されている。多目的トイレのほかに一般用トイレにも手すり、ベビーチェア、便器に温水洗浄装置、小便器に手すりを設置しており、高齢者や障がい者を含めて利用者が多い現状から、だれもが利用しやすくつくりされているという施設づくりが評価された。

### 宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞について

バリアフリーデザインの普及を目的に、障がい者や高齢者等を含めてだれもが利用しやすい、モデルとなるような民間建築物を表彰するために、平成20年度から実施しています。賞の選考にあたっては、高齢者や障がい者、子育て支援、建築士、理学療法士などの団体から、12名の委員で構成された「宮崎市バリアフリー検討会」において行っています。

今年度は、平成23年度に「宮崎市福祉のまちづくり条例」の整備基準に適合し、適合証の交付を受けた民間の74施設を対象に、整備基準の異なる「小規模施設部門」と「中・大規模施設部門」に分けて、第一次審査（書類選考）、第二次審査（現地選考）を経て第三次審査において各賞の選出を行いました。

# 小規模施設部門

## リフォーム賞

## アムール



- ・ 所在地：宮崎市和知川原3丁目
- ・ 主要用途：ネイルサロン
- ・ 管理者：(株)Amour
- ・ 施工者：(株)黒木工務店

### ○講評

宮崎市福祉のまちづくり対象施設整備補助金を活用し、店内をバリアフリーに改修した。建物の出入口は引戸で段差なく入れ店内にも段差はない。トイレは広く、手すりが設置され車いす利用者も利用しやすい。また、店主の福祉に関して意識が高いことなどが総合的に評価された。

## 奨励賞

## キッズ デンタル クリニック



- ・ 所在地：宮崎市大字本郷南方
- ・ 主要用途：小児歯科診療所
- ・ 所有者：押領司 謙
- ・ 設計者：アイデア設計室
- ・ 施工者：(株)内戸保住建

### ○講評

建物出入口に至るスロープは、カーブ状で手すりがないことの難点があったが、内装材に木を多く使用し落ち着いた雰囲気、障がい児も安心して治療が受けられるよう小児歯科専門として設備が充実していることなど、オーナーの利用者に対する配慮が評価された。

### ○バリアフリー検討会現地選考の様子



# 宮崎市バリアフリー検討会委員 審査を振り返って

## 米村 敦子 議長

(宮崎大学教育文化学部教授)

民間建築物のバリアフリー促進を目的とする「宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞」顕彰も今回で第5回目となります。区切りの年でもありますが、今年度も最優秀賞の該当施設はなく、優秀賞1、リフォーム賞1、奨励賞2の結果となりました。バリアフリーは特別なことではなく、当たり前とする意識は普及してきていると思います。ただ、設置したスロープの昇降が怖く動きにくい、点字ブロック上や手摺り前に植木鉢が置いてある、多目的トイレの入口や内部が狭く使いづらいなど、使用する人の危険や不便を除去するというバリアフリーの基本がまだ不十分だと感じました。また、この5年間に手話通訳の普及はみられず、何かいい工夫はないかと考えさせられます。



## 永山 昌彦 副議長

(NPO法人 障害者自立応援センター YAH! DOみやざき理事長)

幼い時、自分の経験から、自分が経営するお店は車椅子の方も気兼ねなく使え、既製品の設備ではないトイレにしたいとリフォームをされた経営者の方の思いには敬服しました。全体的には、もう少し工夫していただけたらととても使い勝手がよいだけどもというものが大多数でした。施工主や設計士の皆さんにおかれましては、自分が不自由になった時、使い勝手がよいだらうか？気兼ねなく過ごせるだろうか？という視点で臨んでいただきたいものだとつくづく思います。



## 馬渡 幸三郎 委員

(NPO法人 宮崎市視覚障害者福祉会 理事長)

最近の建物はバリアフリー化されてハード面が良くなってきていますが、ソフト面はまだだだと思えます。トイレは広く段差解消されているにも関わらず、点字ブロックの上に植木が置いてあったり、マットが置いてあったりします。バリアフリーといってもハード面だけでは本物のバリアフリーにならないと思います。



## 廣志 秀月 委員

(社団法人日本オストミー協会宮崎県支部 副支部長)

2年連続で最優秀賞がなく残念です。本年特に感じたことは、中・小規模施設で、非常口の案内表示は全てにありましたが、非常口に避難器具の表示があり、何処にあるかわからないので、従業員に聞いたが分からなく、上司に聞いてようやくわかる。景観を大切にするか、だれでも分かる方が良いか考えてください。小規模施設では、非常口が1カ所しかないところもあり不安を感じました。またオストメイト対応トイレは中小施設なし。排泄は基本的人権です。一般便座トイレ用「簡易温水設備」から「小型汚物流し」がございますので、ご一考お願いします。口から食べた物が老廃物として排泄されるのは、生理現象です。オストメイトは排泄をコントロールする機能がないので、特に配慮が必要です。



## 平川 洋 委員

(財団法人宮崎身体障害者福祉協会理事長)

一般的にハード面では、大規模施設に比較し小規模施設では、敷地、建物にも制約があるので、いかに効果的に施設・設備を配置して、使い易くするか苦心するところであろう。リフォームの場合も既存の施設という大枠があるので同じようなことが言えるだろう。今回、たくさんの施設を見させていただいたが、それぞれの建物の大小やコンセプトが異なるので比較はなかなか難しかった。結論は、いろいろな障害のある人がいて、いろいろな病気の人がいて、障壁になるものが個々に違いがあることを念頭においてハード面、ソフト面に対処してもらいたいものです。



## 山元 弘道 委員

(宮崎市肢体不自由児(者)父母の会会長)

宮崎市バリアフリー検討会のメンバーとして、新設あるいはリニューアルされた大・中・小規模の施設のバリアフリー化のあり様について、視察検討し、バリアフリー顕彰対象企業の選定を行っているが、最近果たしてバリアフリー化がされているだけで、本当によいのかあ〜と強く思う。それは、例えば、身障者用トイレが設置されていても、トイレまでの導線が悪かったり、車いすでは扉が開けづらかったり、鍵の位置が高く、洗面台の鏡も高すぎて・・・など、利用する障がい者のことが考慮されていない場合もあり、首をかしげてしまう事例も多々ある。また、いくらバリアフリー化を国の指針で促進させても、「多機能トイレ待ってばかり」と揶揄されるように、障がい者が身障者トイレで「思い出すと冷や汗が出る体験」を数多くしている実例が多数報告されており、一般の人のモラルが醸成されていない現実がある。今一度、「誰の為の、何のためのバリアフリー」なのかを、再考する必要があるように思う。



## 土屋 良子 委員

(NPO法人宮崎市手をつなぐ育成会 理事長)

だれもが住みよいまちとして、色々な施設がバリアフリー化に取り組みまれ大変な難い事です。しかし、利用しにくい所や、分かりにくい表示等に戸惑い、障がいのある人たちが高齢者が使いづらい経験があると思えます。審査にあたり、もうひとつ工夫など欲しい所があり残念に思いました。バリアフリーの建物だけでなく、高齢者・障がい者にやさしい心をもつ人が増えることを願っています。



## 藤崎 路子 委員

(NPO法人ドロップインセンター副理事長)

高齢者や身体に障害のある人、ベビーカーが必要な乳幼児の快適かつ安全に移動できるよう配慮された施設について、検討会を行い、また実際に現場での体験を重ねました。結果、せっかく施設の設置基準は満たしている建築物であっても、オストメイトの洗浄液が入っていない、車いすでの方向変換のスペースが十分でない、トイレ使用時のカギに手が届きにくい、通路に物があって通れない等残念に思うことがありました。ただ物理的に解決するバリアフリー化にとどまらず、文字放送や手話通訳、なにより積極的な声掛け「何か役に立つことはありませんか？」のソフト面が加わって、「人にやさしいまちづくり」の大きな一歩になるのではないかと思います。



## 河野 牧太郎 委員代理

(宮崎市聴覚障害者協会副会長)

今回8ヶ所の施設を審査させていただきました。各施設、利用しやすいように工夫されていました。建物の中に、障害者・高齢者への配慮がされており、バリアフリー化されているところが増えて良くなっている事を感じました。ただ、残念なことは手話のできる人、文字情報がなかったことです。聴覚に障害のある立場からは、毎年言い続けていますが、手話のできる人の配置や筆談での対応といった人的配慮(ソフト面での配慮)電光掲示板など文字での情報補償といったものが広がっていくことを願っています。



## 日高 達郎 委員

(社団法人宮崎県建築士会宮崎支部技術委員長)

今回審査に際してバリアフリーに配慮された様々な建築物を見せて頂きました。顕彰審査の結果、優秀賞1、奨励賞2、リフォーム賞1の建物が選ばれました。今年度もバリアフリーの意識がだいぶ高くなって来ていると感じる部分がありましたが、その反面どの建物ももう少しという意見も多く、昨年度に続いて最優秀賞は該当無しという少し残念な結果となりました。今後建築士会としてもシンポジウムを開催するなど自主的に研修会を行う必要があると感じました。日頃建築設計を業務とする私ですが、建築士として今後もユニバーサルな設計を心がけて行きたいと思えます。



## 松元 道文 委員

(宮崎市老人クラブ連合会会長)

初めての参加で評価は難しく感じましたが、大方の施設が障害者、高齢者等社会的弱者の利用にいろいろと配慮されていることを感じました。これからもうさらに一層ハード面のみならずソフト面においても人にやさしいまちづくりが行われるようみんな考えていかなければならないと思います。



宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞  
主催：宮崎市  
事務局：宮崎市都市整備部建築指導課

〒880-8505 宮崎市橘通西1丁目1番1号  
TEL:0985-21-1813 FAX:0985-21-1815  
E-mail:30sidou@city.miyazaki.miyazaki.jp